

目標達成計画

作成日: 平成 25年 3月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26-(10)	担当者会議録にモニタリング内容が記載されており、スタッフが支援の経過を捉えにくい。	スタッフが分かりやすいモニタリングの書式を作成し、介護の実践に活かすことができるようになる。	策定された介護計画が適切か、また、経過において、途中の評価が反映されているかなどについて、スタッフが分かりやすい書式を作成する。(プラン→実施→評価)という介護サービスの流れを理解し、展開できるようにする。	2ヶ月
2	40-(15)	献立表が掲示されているが、料理名のみであり、利用者の特性に応じた配慮ができていない。	それぞれの利用者に、分かりやすい方法で献立を伝え、食事の楽しみをより高めて頂く。	実際の献立を撮影し、その写真や絵などを使って視覚的な表現を考える。当日分を集中的に伝えるなど、新たに考えた方法を試行し、利用者の反応を見ながら分かりやすい献立表を検討していく。	6ヶ月
3	2-(2)	ボランティアや地域住民を施設に受け入れる機会が少なく、交流が、利用者・家族の記憶に残りにくい。	地域の中で、グループホームの存在が認識され、交流の機会が増える。利用者・家族にも、そのことが実感してもらえるようになる。	近隣の保育園や施設との交流を持つ。運営推進会議や施設の行事を通じて、事業所の内容が伝えられるような取り組みを行い、情報や意見を交換する。取り組みについては、定期的に発行しているスマイル通信で利用者・家族に伝えていく。	12ヶ月
4	4-(3)	地域の福祉的役割を考え、協同して地域の安全を守る体制をつくる必要がある。	地域の住民と協同して防災活動が行えるようになる。	自治体、自治会と協同して防災協定を結び、防災訓練等を実施する。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。